

Q4

幼稚園や保育所における集団生活の意味や社会性の育ちについてどのように考えていますか。

A

幼児期は、自我が芽生え、他者の存在を意識し出し、自己を抑制しようとする気持ちが生まれる時期です。

自分の思いを出しながら、多くの友だちとかかわることができる幼稚園・保育所の生活はこの発達を促す大切な場なのです。

幼児にとって集団生活とは（集団生活の意味）

幼稚園・保育所での生活は幼児にとって初めての集団生活の場です。幼児は、そこで自分を温かく受け入れてくれる保育者との信頼関係を基盤に自分の居場所を確保し、安心感をもってやりたいことに取り組むようになります。

また、友だちとのかかわりも増し、そのかかわりの中で様々な自己主張のぶつかり合いによる葛藤を経験したり、保育者や友だちと共にいる楽しさや充実感を味わったりして、次第に皆と生活を作り出していくことの喜びを見出していきます。

【事例】「クラス対抗リレーを通して育つ子どもたち」 5歳児 10月の記録より

リレーが大好きで9月の後半から毎日エンドレスリレーを楽しんでいる。初めの頃はチームの意識はほとんどなく、誰と一緒に走るかに関心が向いていた。二人がそれぞれバトンを持ってトラックを走り、一緒に走った子同士で「勝った」「負けた」と一喜一憂する。リレーを繰り返すうちに、子どもたちの気持ちは少しずつ変わり、最近ではチームの意識、すなわちクラス意識が生まれてきた。「今日は勝ってうれしかった」「ちゃんが転んだから負けた」「向こうの組は足の速い子がいっぱいいる」など、話が弾む。

初めは勝敗の原因を個人の攻撃や、相手のせいにするが多かった。中には友だちの言葉に傷つく子どももいる。保育者は、「転んでも最後まで頑張って走ったね」と抱きしめたり、「ちゃんは家に帰ってからお母さんと一緒に走る練習をしてるんだって」等、本人の気持ちをそれとなく周りの子に伝えたりして、その子が自分なりに力を発揮している姿を認め、相手の立場に立って考えられるように言葉をかけてきた。



保育者を中心にして話し合いを重ねることで次第に「負けていても最後まで走る」「みんなでリレーをするのは楽しい」と言う声が聞こえ始め、「転んだ子の分まで走る」「ちゃんは走るのが速くなってきた」と、友だちの姿を認める子どもも出てきた。どうしたら相手のクラスに勝つことができるかを一人一人が考え、行動に移していくようになり、クラス全体が気持ちを一つに合わせられるようになってきた。

社会性の育ち

このように幼児は家庭ではできないことを幼稚園・保育所で体験しながら、他者とのかかわりを通して**自己主張**をしたり、**仲直り**をしたり、**我慢**をしたり、時には**けんか**をしたりすることで、**相手にも思いがあることがわかり、次第に互いを思いやり認め合うようになっていきます。**

保育者は一人一人の子どもを大切に、寄り添い、その子に合った援助をして成長を促します。具体的には「集団の中で存在感、安心感を得られるよう、その子のよい面を集団の中で話題にする」「幼児が自分の力を出すことのできる場を作る」ことを心がけます。